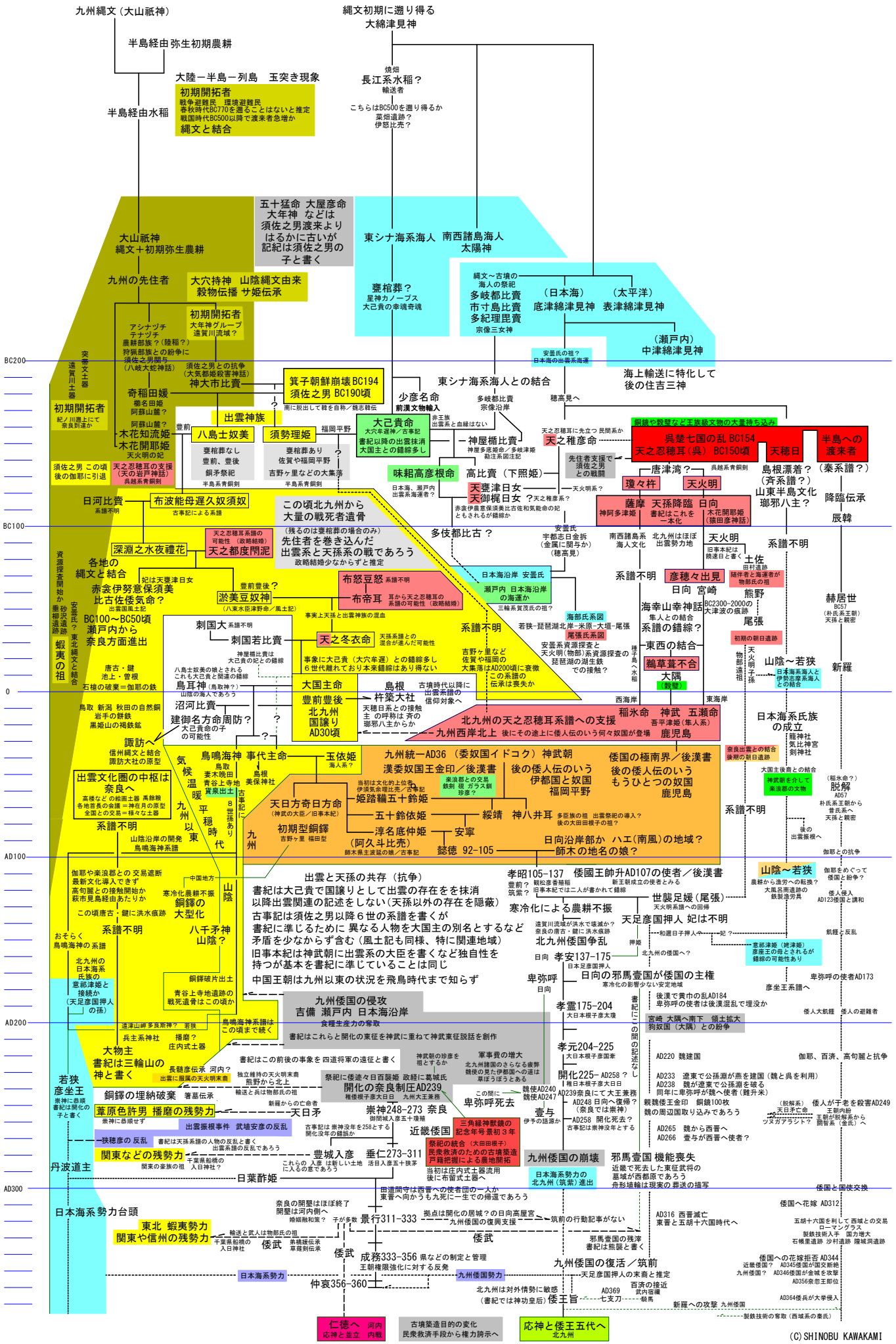
弥生～古墳初期　出雲と天孫

神武以降の年代は書紀年代の復元図による


九州縄文（大山祇神）
半島経由弥生初期農耕
縄文初期に遡り得る
大綿津見神
大陸ー半島ー列島　玉突き現象
初期開拓者
戦争避難民　環境避難民
春秋時代BC770を遡ることはないと推定
戦国時代BC500以降で渡来者急増か
縄文と結合
半島経由水稲
焼畑
長江系水稲？
輸送者
こちらはBC500を遡り得るか
菜畑遺跡？
伊怒比売？
五十猛命　大屋彦命
大年神　などは
須佐之男渡来より
はるかに古いが
記紀は須佐之男の
子と書く
東シナ海系海人　南西諸島海人
太陽神
甕棺葬？
星神カノープス
大己貴の幸魂奇魂
縄文～古墳の
海人の祭祀
多岐都比賣
市寸島比賣
多紀理毘賣
宗像三女神
（日本海）
底津綿津見神
（太平洋）
表津綿津見神
（瀬戸内）
中津綿津見神
大山祇神
縄文＋初期弥生農耕
九州の先住者
大穴持神　山陰縄文由来
穀物伝播　サ姫伝承
初期開拓者
大年神グループ
遠賀川流域？
アシナヅチ
テナヅチ
農耕部族？（陸稲？）
狩猟部族との紛争に
須佐之男開与
（八岐大蛇神話）
須佐之男との抗争
（大気都姫殺害神話）
神大市比賣
突帯文土器
遠賀川土器
初期開拓者
紀ノ川源上にて
奈良到達か
奇稲田媛
櫛名田姫
阿蘇山麓？
阿蘇山麓？
木花知流姫
木花開耶姫
天火明の妃
須佐之男　この頃
後の伽耶に引退
天之忍穂耳の支援
（天の岩戸神話）
呉越系青銅剣
箕子朝鮮崩壊BC194
須佐之男 BC190頃
南に脱出して韓を自称／魏志韓伝
出雲神族
八島士奴美
須勢理姫
豊前
福岡平野
甕棺葬なし
豊前、豊後
銅矛祭祀
半島系青銅剣
甕棺葬あり
佐賀や福岡平野
吉野ヶ里などの大集落
半島系青銅剣
少彦名命
前漢文物輸入
東シナ海系海人との結合
多岐都比賣
宗像沿岸
穂高見へ
海上輸送に特化して
後の住吉三神
大己貴命
大穴牟遅神／古事記
書紀以降の出雲抹消
大国主との錯綜多し
非王族
出雲系と血縁はない
神屋楯比賣
神屋多底姫命／多岐津姫
勘注系図注記
天之稚彦命
天之忍穂耳（呉）BC150頃
呉華七国の乱 BC154
天穂日
半島への
渡来者
銅鏡や穀璧など王族級文物の大量持ち込み
先住者支援で
須佐之男
との戦闘
味耜高彦根命
高比賣（下照姫）
唐津湾？
呉越系青銅剣
島根漂着？
（秦系譜？）
（斉系譜？）
山東半島文化
瑯邪八主？
瓊々杵
天火明
天璽津日女
天御梶日女 ？天之稚彦系？
日本海、瀬戸内
出雲系海運者？
天火明系？
赤盗伊賀意保須美比古佐和気能命の妃
ともされるが錯綜か
薩摩　天孫降臨　日向
神阿多津姫
書紀はこれを
一本化
木花開耶姫
（狭田彦神話）
降臨伝承
辰韓
日河比賣
系譜不明
布波能母遅久奴須奴
古事記による系譜
この頃北九州から
大量の戦死者遺骨
（残るのは甕棺葬の場合のみ）
先住者を巻き込んだ
出雲系と天孫系の戦であろう
政略結婚少なからずと推定
天之忍穂耳系譜の
可能性　（政略結婚）
天之都度閇泥
深淵之水夜禮花
多伎都比古？
安曇氏
宇都志日金拆
（金属に関与か）
（穂高見）
南西諸島系
海人文化
北九州はほぼ
出雲勢力地
天火明
旧事本紀は
饒速日と書く
系譜不明
土佐
田村遺跡
随伴者と海運者が
物部氏の祖
各地の
縄文と結合
資源探査開始か
紀は天璽津日女
赤炎伊努意保須美
比古佐倭気命？
出雲国風土記
布怒豆怒 系譜不明
布帝耳　耳から天之忍穂耳の
系譜の可能性　（政略結婚）
日本海沿岸　安曇氏
瀬戸内　日本海沿岸
の海運か
三輪系黄茂氏の祖？
系譜不明
彦穂々出見
日向　宮崎
熊野
海幸山幸神話
隼人との結合
系譜の錯綜？
BC2300-2000の
大津波の痕跡
尾張
赫居世
（朴氏系王朝）
天孫と親密
淤美豆奴神
（八束水臣津野命／風土記）
豊前豊後？
事実上天孫と出雲神族の混血
安曇氏？
東北縄文と結合
砂沢遺跡
垂柳遺跡
蝦夷の祖
BC100～BC50頃
瀬戸内から
奈良方面進出
刺国大 系譜不明
刺国若比賣
天之冬衣命
天孫系譜との
混合が進んだ可能性
事象に大己貴（大穴牟遅）との錯綜多し
6世代離れており本来錯綜はあり得ない
海部氏系図
若狭-琵琶湖北岸-米原-大垣-尾張
尾張氏系図
安曇系資源探査と
天火明（物部）系資源探査の
琵琶湖の湖生鉄
での接触？
種子島へ水稲
系譜不明
吉野ヶ里など
佐賀や福岡の
大集落はAD200頃に衰微
この系譜の
伝承は喪失か
初期の朝日道跡
東西の結合
鵜草葺不合
大隅
（穀聖）
物部遠祖
天火明子孫
山陰～若狭
日本海系海人と
伊勢志摩系海人
との結合
新羅
唐古・鍵
池上・曽根
石槍の破棄＝伽耶の鉄
大国主命
豊前豊後
北九州
国譲り
AD30頃
島根
古墳時代以降に
出雲系譜の
信仰対象へ
杵築大社
天穂日系との接触
主　の呼称は 斉の
瑯邪八主からか
西海岸
東海岸
鳥取　新潟　秋田の自然銅
岩手の鉄鉱
黒姫山の褐鉄鉱
沼河比賣
建御名方命周防？
大己貴命の子
の可能性
稲氷命　神武　五瀬命
吾平津姫（隼人系）
北九州の天之忍穂耳系譜への支援
九州西岸北上　後にその途上に倭人伝のいう何々奴国が登場
鹿児島
日本海系氏族
の成立
諏訪へ
信州縄文と結合
諏訪大社の原型
鳥鳴海神　事代主命
鳥取
美保比神
青谷上寺地
賀茂出土
玉依姫
海人系？
九州統一AD36　（委奴国イドコク）　神武朝
漢委奴国王金印／後漢書
後の倭人伝のいう
伊都国と奴国
福岡平野
倭国の極南界／後漢書
後の倭人伝のいう
もうひとつの奴国
鹿児島
奈良出雲との結合
後期の朝日道跡
神武朝を介して
楽浪郡の文物
大国主後裔との結合
（稲氷命？）
脱解
AD57
朴氏系王朝から
昔氏系へ
天孫と親密
出雲文化圏の中枢は
奈良へ
高棟などの絵画土器　馬鞍類
各地首長の会議＝神在月の原型
全国との交易＝様々な土器
気候温暖
九州以東
平穏時代
8世孫あり
古事記に
九州
天日方奇日方命
（神武の大臣／旧事本紀）
姫踏鞴五十鈴姫
当初は文化的上位者
伊須気余理比売／古事記
楽浪郡との交易
鉄剤　硯　ガラス製
珍宝？
系譜不明
山陰沿岸の開発
鳥鳴海神系譜
初期型銅鐸
吉野ヶ里　福田型
五十鈴依姫
淳名底仲姫
（阿久斗比売）
師木県主波延延の娘／古事記
綏靖
安寧
神八井耳
多臣族の祖　出雲祭祀の導入？
後の大田田根子の祖？
懿徳　92-105
日向沿岸部か　ハエ（南風）の地域？
師木の地名の娘？
倭國王帥升AD107の使者／後漢書
新王朝成立の使者とみる
旧事本紀では二人が書かれて錯綜
孝昭105-137
豊前？
筑紫？
籾松彦蒼稲
世襲足媛（尾張）
天火明系譜への回帰
山陰～若狭
農耕から漁労への転換？
大風呂南遺跡の
鉄製漁労具
倭人侵入
AD123倭国と講和
倭国をめぐって
倭国と紛争？
倭人大飢饉　倭人の避難者
倭人が于老を殺害AD249
（脱解系）
天日矛亡命
王朝内紛
王朝が税解系から
ツヌガアラシト？　調智系（金氏）へ
倭国と国使交換
倭国へ花嫁　AD312
五胡十六国を利して 西域との交易
ローマングラス
製鉄技術入手　国力増大
石橋里遺跡 沙村遺跡 隆城洞遺跡
倭国への花嫁拒否 AD344
近畿倭国？　AD345倭国が国交断絶
九州倭国？　AD346倭国が金城を攻撃
AD356奈忍王即位
AD364倭兵が大挙侵入
新羅への攻撃 九州倭国
製鉄技術の寄取（西域系の秦氏）
出雲と天孫の共存（抗争）
書紀は大己貴で国譲りとして出雲の存在をを抹消
以降出雲関連の記述をしない（天孫以外の存在を隠蔽）
古事記は須佐之男以降６世の系譜を書くが
書紀に準じるために 異なる人物を大国主の別名とするなど
矛盾を少なからず含む（風土記も同様、特に関連地域）
旧事本紀は神武朝に出雲系の大臣を書くなど独自性を
持つが基本を書紀に準じていることは同じ
中国王朝は九州以東の状況を飛鳥時代まで知らず
倭人の抗争
倭国をめぐって
倭国と紛争？
倭人侵入
AD123倭国と講和
倭人大飢饉　倭人の避難者
倭国の極南界／後漢書
後の倭人伝のいう
もうひとつの奴国
鹿児島
倭国の極南界／後漢書
後の倭人伝のいう
伊都国と奴国
福岡平野
寒冷化による農耕不振
天足彦国押人 妃は不明
遠賀川流域が洪水で壊滅か？
奈良の唐古・鍵に洪水痕跡
北九州倭国争乱
押姫
和遅日子押人
紀？
意郡津姫（姥津姫）
彦座王の母とされるが
錯綜の可能性あり
日向
孝安137-175
日本足彦国押人
日向の邪馬壹国が倭国の主権
寒冷化の影響少ない安定地域
卑弥呼
日向
卑弥呼の使者AD173
彦坐王系譜へ
後漢で黄巾の乱AD184
卑弥呼の使者は後漢混乱で埋没か
孝霊175-204
大日本根子彦太瓊
宮崎　大隅へ南下　領土拡大
狗奴国（大隅）との紛争
孝元204-225
大日本根子彦国牽
AD220 魏建国
伽耶、百済、高句麗と抗争
開化225- AD258？
稚日本根子彦大日日
AD233　遼東で公孫淵が燕を建国（魏と呉を利用）
AD238　魏が遼東で公孫淵を破る
同年に卑弥呼が魏へ使者（難升米）
AD239奈良にて大王兼務
AD248 日向へ復帰？
（奈良では崇神）
AD258 開化死去？
古事記は崇神没年とする
親魏倭王金印　銅鏡100枚
魏の周辺国取り込みであろう
AD265　魏から西晋へ
AD266　壹与が西晋へ使者？
書紀にこの間の記述なし
倭人の抗争
倭国の極南界／後漢書
後の倭人伝のいう
もうひとつの奴国
鹿児島
倭国の極南界／後漢書
後の倭人伝のいう
伊都国と奴国
福岡平野
倭国の極南界／後漢書
後の倭人伝のいう
もうひとつの奴国
鹿児島